

福岡県立小倉高校(通称:倉高)が私の母校です。倉高は、1947年、48年と夏の甲子園大会で連覇。優勝旗が初めて関門海峡を渡りました。マウンドの土をズボンのポケットに忍ばせた優勝投手の福岡一雄さんは、甲子園の土を最初に持ち帰った人とされています。また、早稲田大学応援歌の「コンパクトマーチ」を甲子園で初めて披露したのも倉高と言われています。春夏合わせて21回の甲子園出場経験があり、野球には特段の思い入れがある学校です。



田口 淳さん

忘れられないのは、入学してすぐの「応援練習」です。放課後の講堂に新入生450人が集められ、応援団の指導で、野球の応援方法を3日間叩き込まれます。校歌に追いつき、多くの応援歌があり、覚えるのも一苦労。応援団の先輩に指名されると、大声で歌います。間違えるとクラス全体の責任。本人は腕立て伏せ、クラスの仲間は片手をずっと上げたまま、正しく歌えるまで続けます。ふと気がつくと、応援団の先輩は新入生と一緒に腕立て伏せを繰り返して、手はずっと上げたまま。真剣勝負が続きます。講堂の後方席では、2、3年生数百人が見守ります。「まだまだ!」「声が出てない!」と先輩たちの声が響きます。何てひどい人たち、と憎らしく。でも3日目の最終日になると、新入生全員が大きな声で元気よく歌えるように。応援団長が「先輩諸君! これぞどうだ!!」と呼びかけると、2、3年生から拍手と歓声が沸き起こりました。本当の倉高生になった瞬間でした。

北九州から遠く離れた東京でも、会社や得意先で倉高同窓生に出会います。厳しい校則のせいか、窮屈な思いをした人も多いようですが、私にとっては最高の高校生活でした。



岩田 恵吾さん

昭和54年4月、法政大学に入学した私は何かの間違いか応援団に入団してしまいました。多分当時流行っていた「嗚呼花の応援団」という漫画の影響かもしれません。当時、東京六大学野球で法政大学野球部は花の49年組と呼ばれた江川卓氏は甲子園のスター選手が抜けてしまい、2年連続で優勝出来ませんでした。しかし私の現役中2年の秋、3年の秋、4年の春とリーグ戦で優勝することが出来ました。特に4年の春のリーグ戦は10戦全勝勝ち点5という成績で優勝を飾り、全日本選手権大会でも優勝しました。当時の野球部のメンバーを見るとPL学園の優勝バッテリー 木戸 西田を始め、小早川 南宇和の田中富雄 浜松商の樽井 首位打者饒子利夫 作新の神長 報徳の手嶋 日藤の和田護 浪商の木村 高知の伊吹淳一 中京商の山

野球を始めた幼い頃からの目標「甲子園出場」を目指し、今から10年前、千葉県木更津市にある拓殖大学紅陵高等学校に入学、同時に実家を離れ寮生活がスタートしました。ただ一つの目標のために、全国から集った仲間とは日々の練習はもちろんのこと、学校の授業、食事や風呂など全ての時間を共に過ごし、練習には100名近い部員と互いに切磋琢磨しあい、毎日とにかく必死でした。特に冬の早朝練習は、母校拓殖大紅陵の名物でもあり真冬の深夜3時に始まります。汗が蒸発して湯気がたち、意識が朦朧としてくる練習を全員で乗り越えた達成感は、今でも鮮明に覚えています。寮生活においては、普段の私生活だけでは学ぶことのできない、目上の方に対する気遣いや、礼儀を学び、何処にいても息つく間がなかったですが、先輩に内緒で禁止されていた炭酸ジュース、カップラーメンを隠れて飲



榎垣 光樹さん

んだり食べたりすることが楽しみでした(はれたら色々大変ですが...)。また、武道系の部活動にも力を入れている高校でしたので、当時の寮には野球部員だけでなく、空手、柔道、相撲部の部員も多数おり、寮内はまさにジャングルのような環境でしたが、今思えば寮生ならではの楽しみなどもあり、良い経験ができたと思います。結局、3年間のうち目標であった甲子園出場は叶いませんでしたが、共に喜びや悔しさなど全てを分かち合った掛け替えのない大切な仲間とは、今でも折折集まると当時の懐かしい話で盛り上がり、高校野球の3年間で培ったことは、社会人になった私の大きな支えとなっており、辛い時こそ、今後もこの経験を活かしていきたいと思えます。

**賀正**

**練馬建設株式会社**  
代表取締役 宮坂 武朗  
東京都練馬区小竹町一丁目九番九号  
電話(03)3977-0000  
FAX(03)3977-0011

**松本建設株式会社**  
代表取締役 松本 力  
東京都豊島区東池袋五丁目一五番一五号  
電話(03)3591-5115

**東武谷内田建設株式会社**  
取締役 谷内田 良吉  
本社事務所 東京都豊島区東池袋三丁目三番八号  
電話(03)3591-5115  
電話(03)3591-5116  
電話(03)3591-5117

**大正建設株式会社**  
代表取締役 小川 正允  
東京都墨田区太平四丁目一丁目二番二番九号  
電話(03)3644-5521  
FAX(03)3644-5522

**イチゲミ**  
代表取締役 西野 輝彦  
東京都江川区東葛西六丁目一丁目三番七番七号  
電話(03)3648-3484

「福岡小倉高校」忘れられない「応援練習」

私の母校は、急激な生徒増のため昭和40年代に多く設立された都立高校の一つで、当時、私の代でもまだ8期目という若い高校であった。1クラス45人、1学年10クラスで、とにかく生徒が多かったが、堤防を挟んで多摩川という立地で、グラウンドも比較的広かったせいとか、閉塞感や暑苦しさはなく、暑い夏でも窓を全開にしていればそれなりに涼しかった。



松永 光智さん

一コマ50分の授業は学年を経ることに苦痛(笑)になっていったが、放課後に教室で友人とギターをガチャガチャ鳴らしていたことなどはよく記憶に残っている。また、階段の踊り場から多摩川の向こうに見える富士山が、冬場の夕日に映えて大変美しかったことは忘れられない思い出だ。

私青春時代の思い出は、都立北園高等学校から始めたラグビーです。中学では卓球部に所属していたのですが、幼稚園から高校まで同じ学校だった一つ上の先輩に体格の良さを見込まれ、先輩からの熱烈な勧誘に陥落してしまい、入部しました。卓球とは180度違うラグビー。当時周囲からは、「ずいぶん、思いきったなあ。」とよく言われました。



反町 英典さん

見た目にハードなラグビー。2か月でそれが見た目だけではないことを実感する洗礼を受けました。足首を骨折してしまったのです。通学は電車でしたが、バリアフリーが今のようには整備されていない時代。辛くて涙を流しながら通っていたことを今でも覚えています。それでも「走れないなら、上半身を強化しよう。」と前を向いて鉄アレーを購入し、毎日体を鍛えました。が、今度は鉄アレーを自分で落とし、指をつぶして確う羽目に。

**岡建工務株式会社**  
代表取締役 岡本 恵子  
東京都墨田区東陽形一丁目一丁目九番九号  
電話(03)3644-5521  
電話(03)3644-5522

**鉄進興工業株式会社**  
代表取締役 若月 和二  
東京都荒川区西新橋五丁目一丁目一〇番一〇号  
電話(03)3891-1755

**小俣建設工業株式会社**  
代表取締役 松尾 光徳  
東京都世田谷区上馬四丁目一丁目二番二番四号  
電話(03)3411-3911

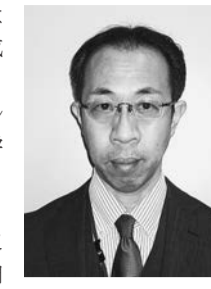
**株式会社ノバック**  
代表取締役 小根 澤美和  
東京都荒川区東尾久三丁目一丁目一五番一五号  
電話(03)3891-5115

**株式会社 東工務店**  
代表取締役 小根 澤美和  
東京都荒川区東尾久三丁目一丁目一五番一五号  
電話(03)3891-5115

**株式会社 凌祥**  
代表取締役 吉田 直弘  
東京都中央区日本橋二丁目一丁目一〇番一〇号  
電話(03)3641-9500

「都立江高」放課後の教室で友人とギター演奏

1974年に設置された都立高島高校。私が入学した頃は開校10年余りであり、都立ではまだ新設校と言われ人気があった。中学がとてんで荒れていて、当時仲の良かった友達グループと話し合い、学校の新しさもあり、皆で揃って進学した。



長谷川 昌之さん

都立の強豪校として強かった野球部員が、学年の各クラス委員を占拠する慣例のようなものがあった。これに反発し、入学して最初のホームルームに中学時代の仲間と結託して、クラス委員に皆で立候補した。当時10クラスあったうちの3クラスを制覇した記憶がある。私も最初のクラス委員になったが、後期では野球部員にあっけなく譲り渡した。23区内の高校にしては広い校庭で、少しだけかじっていたサッカーをしたい

平成7年4月。当時県内屈指の野球強豪校だった、愛媛県立松山商業高等学校へ入学し、同時に野球部に入部した。少年時代から、甲子園大会に出場する事を夢見て野球を続けてきた私だが、厳しい練習で有名だった松山商業野球部に入部し、甲子園を目指す姿など一度も思い描いた事はなかった。



新田 浩貴さん

理由は、猛練習に耐え3年間野球を続ける自信など全くなかったからだ。そんな理由から、甲子園出場の夢が遠のいても、普通科の高校へ進学して野球をしようと受験勉強をしていた中学3年生の冬に、中学時代の監督、コーチに説教され、決意が固まらぬまま松山商業を受験し、見事合格してしまったのであった(苦笑)

私の母校である神奈川県立鎌倉高等学校(通称・鎌高)は、関東の駅百選に選定された江ノ島電鉄鎌倉高校前駅から日坂(にっさか)という坂を上ったところにある。校舎の正面には相模湾が、一部の教室からは海が見渡せた。右手には富士山と江ノ島、左手には稲村ヶ崎から三浦半島を一望でき、正面には大島、天気の良い日は三宅島まで望める県下有数の景勝の地にある。今ではアニメの聖地となっているとのことだが、アニメが放映されたのは私が鎌高を卒業した後のことである。当時もドラマや映画の撮影が学校の周囲でよく行われていた。



吉田 順一さん

鎌高に入部すると山岳部に入り、最初の夏合宿で北アルプスを縦走して槍ヶ岳に登った。その日の朝、迎えた御来光にとても感動したことを覚えている。山岳部は諸事情により1年限りで辞めて文化系の部活に入ったが、鎌高は各種学校行事などが盛んで、毎日充実した学生生活を送っていた。忘れられない思い出のひとつに文化祭や体育祭の後夜祭がある。鎌高では隔年で秋に文化祭・体育祭が行われたが、その後夜祭では1年生から3年生の同じクラスの生徒が1つのチームを作り、グラウンドの中央に設けた巨大キャンプファイヤーのような焚火の周囲で、全生徒がフォークダンスや創作ダンスを踊った。その練習と称して、山岳部時代の吉田さん(後方の尖った所が槍ヶ岳) 毎日、放課後に七里が浜海岸の駐車場に集まり、終電近くまでみんなで踊ったことが懐かしい。

**株式会社 凌祥**  
代表取締役 吉田 直弘  
東京都中央区日本橋二丁目一丁目一〇番一〇号  
電話(03)3641-9500

**株式会社 東工務店**  
代表取締役 小根 澤美和  
東京都荒川区東尾久三丁目一丁目一五番一五号  
電話(03)3891-5115

**株式会社 凌祥**  
代表取締役 吉田 直弘  
東京都中央区日本橋二丁目一丁目一〇番一〇号  
電話(03)3641-9500

我が母校



新年明けましておめでとうございます。今年のお正月はどのようにお過ごしになりましたか。帰省して普段あまり会えない友人と旧交を温める機会を持った方もいるかと思いますが、今回「我が母校：青春時代思い出の1枚」と題し、懐かしい青春時代を当時の写真と共に8名の方に振り返ってもらいました。

毎年、野球部入部希望者は入学前の春休みにグラウンドに集められる事になっていて、初日は練習を見学するだけだったが、それだけでなく翌日から練習に来なくなってしまう者もいたほど想像を絶する練習風景に衝撃を受けたことは今でも鮮明に覚えている。

30名程いた同級生は、あつという間に10数名になってしまったが、私にとっては、苦業を共にして3年間野球を続けてきた、かけがえのない仲間だ。夢だった甲子園には春1度、夏2度も出場する事ができ、平成8年夏の甲子園決勝戦では「奇跡のバックホーム」として今でも語り継がれている大変な試合も経験させてもらった。それでも、仲間と飲む酒のつまみは、卒業して20年以上経った今も決まって野球部時代の苦しかった思い出ばかりだ。

学校行事などが盛んで、毎日充実した学生生活を送っていた。忘れられない思い出のひとつに文化祭や体育祭の後夜祭がある。鎌高では隔年で秋に文化祭・体育祭が行われたが、その後夜祭では1年生から3年生の同じクラスの生徒が1つのチームを作り、グラウンドの中央に設けた巨大キャンプファイヤーのような焚火の周囲で、全生徒がフォークダンスや創作ダンスを踊った。その練習と称して、山岳部時代の吉田さん(後方の尖った所が槍ヶ岳) 毎日、放課後に七里が浜海岸の駐車場に集まり、終電近くまでみんなで踊ったことが懐かしい。

青春を謳歌したあの日々は、今となっては何物にも代えがたい貴重な3年間だった。高校を卒業してから30年以上経つが、今でも時々、鎌高の海を眺めに行っては元気をもらっている。

**株式会社 凌祥**  
代表取締役 吉田 直弘  
東京都中央区日本橋二丁目一丁目一〇番一〇号  
電話(03)3641-9500

**株式会社 東工務店**  
代表取締役 小根 澤美和  
東京都荒川区東尾久三丁目一丁目一五番一五号  
電話(03)3891-5115

**株式会社 凌祥**  
代表取締役 吉田 直弘  
東京都中央区日本橋二丁目一丁目一〇番一〇号  
電話(03)3641-9500